

6/15(金) ドキュメンタリー映画+討論会

「大テント—想像力の避難所—」監督：陳芯宜（映像作家、台湾テント劇団「海筆子」メンバー）

本作品は「台湾海筆子」によるテント活動の台湾での十年に渡る足跡、及び日本や北京などにおける活動の軌跡を記録したものである。1999年、映像作家、陳芯宜は友人と共に二重放水路にて桜井大造氏率いる「野戦ノ月」によるテント演劇「Exodus(出核害記)」を鑑賞した。桜井氏によるアリティー溢れる語り、役者らが最後の力を振り絞って舞台上に立たんばかりの表現方式は、当時の陳芯宜氏を大いに震撼させた。彼女にとって最も忘れがたく印象に残った光景は、劇の最後にテントの背景がすべて取り外され台北の情景が視界に飛び込んできた際、まさに虚構と現実が相まったその瞬間であった。

テント劇の由来は日本戦後的小劇場運動から始まり、その歴史は60年代まで遡る。桜井大造が設立した日本の「野戦ノ月」が1999年、初めて台湾でテント公演を行い、青年たちを大いに震撼させた。その後、徐々に台湾テント劇団「海筆子」の活動が始まった。テント劇は台湾において「想像力の避難所」となった。



コーディネーター：羅皓名（本研究科博士後期課程、「海筆子」メンバー）
コメンテーター：丸川哲史（本研究科「平和・環境」コース／ナショナリズムと知識人）

試演会ワークショップ（テント劇団「野戦ノ月」+本研究科教員&院生）

6/16(土)



試演会ワークショップ「イーハトーヴの鍵」

序文：試演会ワークショップとは、個々の参加者が持っている想像力の断片を繋ぎ合わせてみせる実験的芝居です。今回は、その実験現場として半円形のドーム型テントを建てるわけですが、このテントにより、キャンバス全体が幾ばくか違ったものに見えることになるでしょう。かつて古代中国人は「天」を正円として、「地」を正方形としてイメージしていました。今回の試演会はそのような、人類の原初的感覚にいざなう試みとなるでしょう。そのいざないの中で、私たちの既知の「時間」は寸断されたり、逆に後退したり、あるいは曲がりくねったりするはずです。さて、今回のテーマは、今世紀においてどん詰まりをむかえた「進歩」と呼ばれる時間、そして既成のエネルギー＝エコロジ一体制の不可能性です。この問題系を解くには、一般的な政策論だけでは足りないでしょう。むしろ私たちの想像力の回復を賭けてみなければならない。今回は、私たちの未知の「時間」を奪い返す試みとしての試演会です。

脚本 = 森美音子、ばらちづこ、丸川哲史、監修 = 桜井大造
ワークショップ指導 : 桜井大造（「野戦ノ月」演出家）



特定課題講座

「風に吹かれて—テントは世界を包む 2018」

6月11日(月)、12日(火)、13日(水)、14日(木)、15日(金)、16日(土)

※毎回 18時半 開場 19時 スタート @明治大学和泉キャンパス特設テント

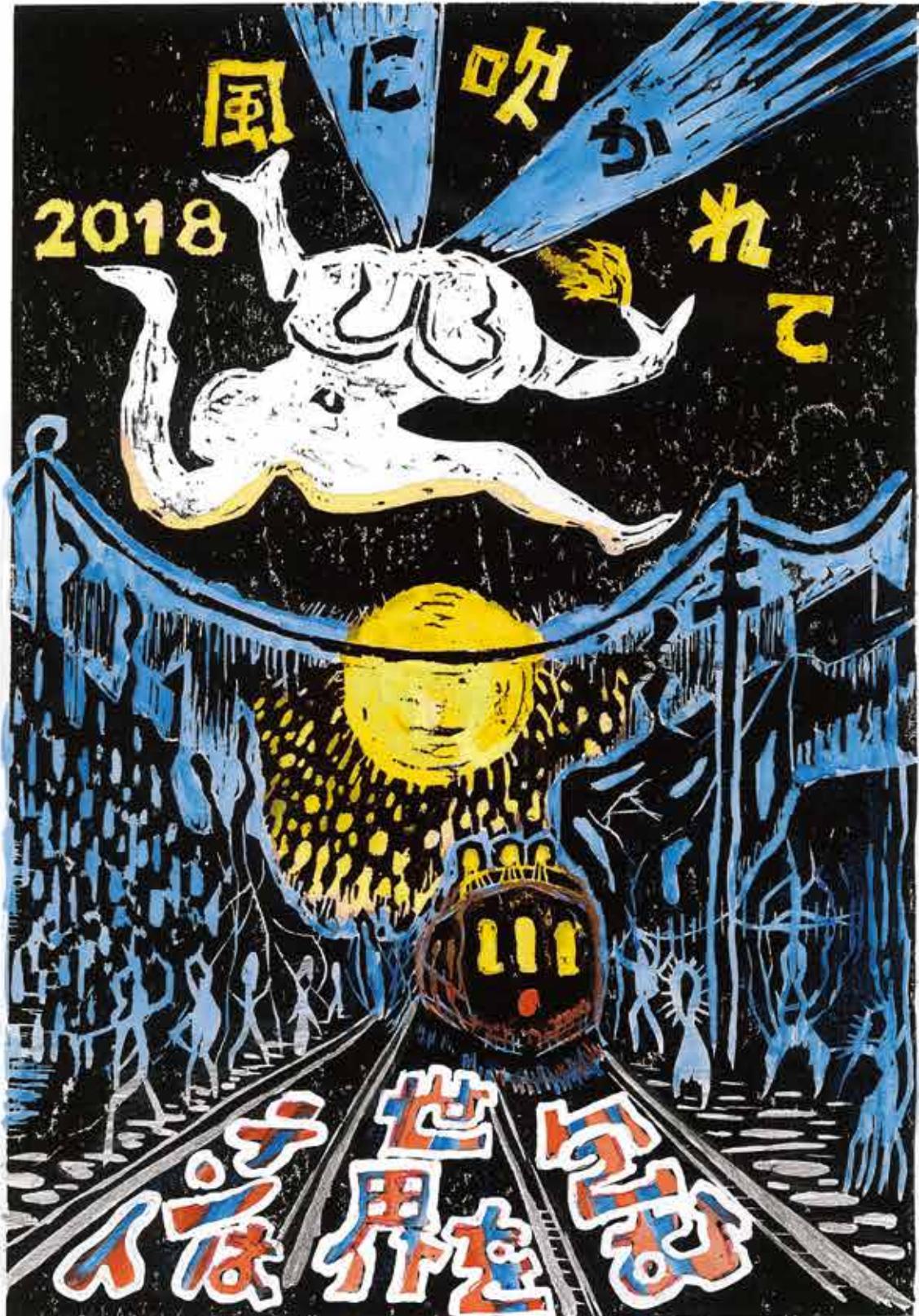
主催／明治大学大学院教養デザイン研究科 協力／テント劇団「野戦ノ月」

※ 参加費は無料です。

6月11日(月)～16日(土) 毎日19時～(18時半開場)

特定課題講座

主催：明治大学大学院教養デザイン研究科



事前申し込みは不要です。お問い合わせは下記のメール・アドレスまで
e-mail: humanity@mics.meiji.ac.jp

協力：テント劇団「野戦ノ月」

場所：明治大学和泉キャンパス特設テント

6/11(月) 講演「自分を好きになる禅のヒント」

長年禅の講演や座禅会、企業研修等をしてきた中で、昨今の若者が自分に対して信頼感が持てず密かに悩んでいるのを実感しています。他人の目が気になる、自分の軸がないので決断や判断において自信がない、将来が楽しみとは思いにくいなどの相談は後を絶たない。禅は自己の位置づけを「縁起」という調和理論に見出し、全体と自己との関係性を明らかにする。また坐禅はマインドフルネスの母体として自己承認を獲得する手段でもある。他者承認に頼る若者の漠然とした不安感へのヒントとして禅を紹介したい。

講師：笠倉玉渓（人間禅）…山岡鉄舟、中江兆民らが中心に始まった在家の禅「人間禅」にて35年の修行歴。リクルートでライターをした後フリー。書道家として禅の呼吸で書く「禅書道」を大学公開講座他で主宰。仏教講座は七か所で主宰。全国で禅の講演会多数。二児の母。



コメンテーター：本間次彦（本研究科「思想」コース／東洋哲学）

講演「神話と共同体《プロメテウスとしてのヴァン・ゴッホ》」

6/12(火)

ギリシャ神話の英雄《プロメテウス》は神々の火を盗み人間に与えた。炎の画家《ヴァン・ゴッホ》は1880年12月23日、左耳を自分の身体から盗みとり、ひとつの太陽としてわたしたちに贈与した。共同体を夢見て「人間たちの血にまみれた神話」となったゴッホの太陽に焼かれて、いくつもの試みが行われた。その情動と可能性をバタイユの体験や白樺派の情熱を手がかりに考えたい。



講師：上岡誠二（芸術活動家）…1998年より芸術共同体の試みを始める。2017年より、私塾「自由芸術大学」を開催。また版画コレクティブ「A3BC」クルーで沖縄などを回る。
自由芸術大学：freeart-univ.org、A3BC：a3bc.hanga.org

コメンテーター：岩野卓司（本研究科「思想」コース／フランス現代思想）

教養デザイン研究科は「人間性とその適正な環境の探求」をテーマにかけ、
学際的な研究と教育を目指し開設されました。以下の三つのコースから構成されています。

- ①「思想」領域研究コース：グローバルかつアクチュアルな視点から現代社会を分析し、現代にふさわしい倫理や思想のあり方を目指します。
- ②「文化」領域研究コース：他者理解をキーワードにし、複雑化する社会を文化の観点から読み解きます。
- ③「平和・環境」領域研究コース：戦争や貧困、平和の問題を共生の観点から、また歴史の観点から読み解き、平和構築を目指します。

講演「セトラー・コロニアリズムとアメリカ合衆国—不可視化される先住民族と核開発」

6/13(水)

本報告では、アメリカ合衆国の核開発と人種差別の接点について、セトラー・コロニアリズムの歴史的な文脈を重ね合わせる作業を通じて考える。マンハッタン計画、核廃棄物関連施設、核実験の現場では、先住民族の生活環境が脅かされてきた。アメリカの核開発を、先住民族の身体と文化の「消去」を前提にしたセトラー・コロニアリズムの構造と運動したプロセスとして捉え、フィールドワーク等で得た知見をまじえながら報告する。



講師：石山徳子（本研究科「平和・環境」コース）

…ラトガース大学大学院地理学研究科博士課程修了（地理学 Ph.D.）。

単著に『米国先住民族と核廃棄物 環境正義をめぐる闘争』明石書店（2004）、主な共著書に『ヘイト』の時代のアメリカ史人種・民族・国籍を考える』彩流社（2017）など。

コメンテーター：森永由紀（本研究科「平和・環境」コース／気候学・環境科学）

6/14(木) 学術ワークショップ 「石川啄木を語るタベー留学生の報告と映画等を通して—」

石川啄木は、常に国語の教科書に短歌が掲載されている国民的な歌人であると同時に、18ヶ国に翻訳されている国際的な文学者でもあります。留学生から自身の国における啄木受容について報告してもらいます。また、新井満が歌った啄木短歌を流したり、また啄木の人生を映像にしたものや、井上ひさし「泣き虫・なまいき石川啄木」・三谷幸喜「ろくでなし啄木」（藤原龍也、中村勘太郎）などの舞台作品の録画の一場面も上映します。これらを通して、大いに啄木について語っていただくタベーにしたいと思います。

コーディネーター：池田功（本研究科「文化」コース／日本近代文学）

…博士（文学）。国際啄木学会会長など歴任。単著に『石川啄木国際性への視座』、『石川啄木入門』、『啄木日記を読む』、『啄木の手紙を読む』など。



報告者：劉怡臻（本研究科博士後期課程）、応宜婧（本研究科博士前期課程）

コメンテーター：井上善幸（本研究科「思想」コース／ヨーロッパ文学及び哲学）

教養デザイン研究科は「人間性とその適正な環境の探求」をテーマにかけ、
学際的な研究と教育を目指し開設されました。以下の三つのコースから構成されています。

- ①「思想」領域研究コース：グローバルかつアクチュアルな視点から現代社会を分析し、現代にふさわしい倫理や思想のあり方を目指します。
- ②「文化」領域研究コース：他者理解をキーワードにし、複雑化する社会を文化の観点から読み解きます。
- ③「平和・環境」領域研究コース：戦争や貧困、平和の問題を共生の観点から、また歴史の観点から読み解き、平和構築を目指します。

○大学院合同進学相談会 5/26(土) 13時～

@駿河台キャンパス・アカデミーコモン

※教養デザイン研究科による個別相談は14時～16時

@アカデミーコモン2Fビクトリーフロアにて

○教養デザイン研究科進学相談会 6/18(月) 18時～19時

@駿河台キャンパス・グローバルフロント3F 403N教室（I期入試出願期間7/6-7/11）